

●教材について

お年玉は、子供たちが年のはじめに最も楽しみにしている日本の風習の一つです。

三学期が始まると、もらったお年玉の金額や購入した品物の話で、子供たちは盛り上がりまです。しかしながら、お年玉の意味や由来について聞くと、「考えたことがなかった」「知らない」と答える子供たちがほとんどです。

お年玉は、年のはじめに年神様に奉納された鏡餅を参拜者に分け与えたことからきているとされています。鏡開きをして、鏡餅に入った年神様の魂を食べることで、新しい年の幸福を分けていただくと考えられてきましたが、時代とともに、鏡餅からお金に変化してきたようです。そこで、新年を迎えたこの時期に、お年玉に込められた「子供の健康や成長を願う心」を考えさせることで、物やお金を大切にする意味を深く考えさせていきたいものです。

●内容項目についての捉え

この教材に該当する内容項目は、「A 節度、節制」です。関連する内容項目としては、「C 家族愛、家庭生活の充実」が考えられます。

内容項目「節度、節制」は、次のように示されています。

【第一学年及び第二学年】

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をするよう。

【第三学年及び第四学年】

自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をするよう。

学習指導要領の中学年の箇所には、

低学年の内容として示されていた基本的な生活習慣に関する具体的な事項については、この段階では内容の表現上は省略されているが、児童の状況に応じて適宜、継続的に指導していく必要がある。

と記されています。基本的な生活習慣については、中学年でも繰り返し返しの指導が大切です。内容項目は指導の窓口であると捉え、目の前の子供たちに応じた授業を構想しましょう。

教師用資料

●お年玉の由来について考えよう

〈参考資料〉

【お年玉の由来はなんだろう？】

- ①お手玉 ②鏡餅 ③鏡

【答え】…②鏡餅

お年玉とは、一年のはじめに、年神様（家々に一年の実りと幸せをもたらすために、高い山から降りてくると考えられている新年の神様）にさしあげた鏡餅を、神社にお参りに来た方たちに分け与えたことからきていると言われています。昔は、参拝者が家に持ち帰ったその鏡餅を砕いて半紙に包み、家族（や使用人）に分け与えていたようです。

時代とともに、鏡餅が少しずつ扇子や茶碗の品物に、そしてお金へと変わってきたとのことです。

【お餅は何を表していたのか】

お年玉の役割だったお餅は、年神様の魂（生きる力・気力）を表していた。

【なぜお餅に魂が宿ると考えられたのか】

年神様は、稲や実りの神様でもあるから、鏡餅に年神様が宿ると考えられたようです。稲の刈り入れは、天候に左右されやすく、収穫できない年は、たくさんの人々が飢え死にすることもありました。昔の人々にとって、お米は、とても大切な食べ物だったのです。

【お餅を参拝者に分けていたわけは】

新年に、年神様から新年の魂を分けていただくことで、健康や幸福を分けていただいていたとされています。

黒板掲示用資料

●鏡餅（資料A）



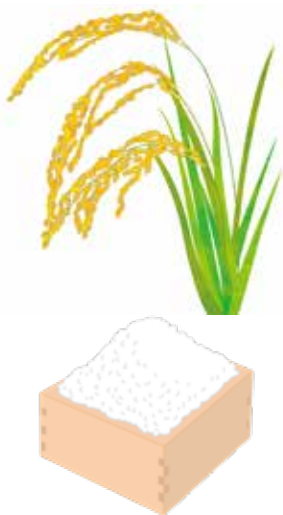
●扇子等（資料B）



●お年玉（資料C）



●お米・稲（資料D）



●稲を育てるお百姓さん（資料E）



●家族（お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃん・兄弟・姉妹の顔）（資料F）







お年玉



